

東北地方 1か月予報

(8月13日から9月12日までの天候見通し)

平成17年8月12日

仙台管区气象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

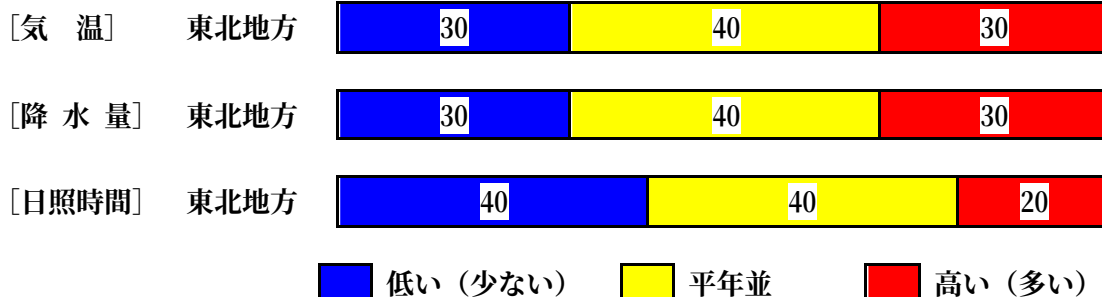
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

期間の前半は気圧の谷やオホーツク海高気圧の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多いですが、後半は高気圧におおわれて平年に比べ晴れる日が多いでしょう。

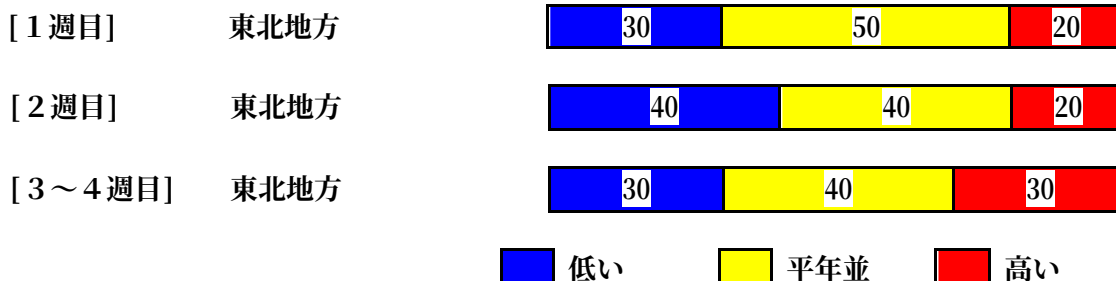
向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並か低い、3～4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 8月13日(土)～ 9月12日(月)
1週目 : 8月13日(土)～ 8月19日(金)
2週目 : 8月20日(土)～ 8月26日(金)
3～4週目 : 8月27日(土)～ 9月 9日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は8月19日
3か月予報: 8月25日(木) 14時00分

＜参考資料（平年並の範囲等）＞

（１）30年平均値（向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温）

	気 温 (℃)	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	気 温(℃)		
				1 週目	2 週目	3～4 週目
大船渡	22.0	221.4	139.8	23.1	22.7	21.5
新庄	22.5	166.9	152.6	24.2	23.5	21.8
若松	23.5	129.9	174.3	24.9	24.4	22.8
深浦	22.0	174.6	173.6	23.3	22.7	21.4
青森	21.8	136.0	177.6	23.2	22.5	21.2
むつ	20.6	163.2	142.5	21.7	21.2	20.1
八戸	21.2	168.4	156.2	22.4	21.9	20.7
秋田	23.2	193.6	185.7	24.8	24.1	22.5
盛岡	21.7	183.1	141.0	23.4	22.7	21.0
宮古	21.2	202.3	144.8	22.4	21.9	20.7
酒田	23.6	193.1	189.8	25.2	24.5	22.9
山形	23.2	149.5	163.6	24.8	24.2	22.5
仙台	23.0	191.9	137.4	24.2	23.7	22.6
石巻	22.6	143.9	158.1	23.6	23.3	22.1
福島	24.0	153.5	139.2	25.3	24.8	23.4
白河	22.2	240.1	138.1	23.4	22.9	21.7
小名浜	23.5	161.0	174.7	24.1	24.0	23.2

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.3～+0.4	78～ 118	91～ 107
東北日本海側	-0.4～+0.6	80～ 110	91～ 107
東北太平洋側	-0.3～+0.4	73～ 119	89～ 110

（３）この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北地方	-0.6～+0.9	-0.5～+0.8	-0.5～+0.8
東北日本海側	-0.7～+0.8	-0.5～+0.7	-0.6～+0.7
東北太平洋側	-0.6～+0.9	-0.5～+0.8	-0.5～+0.8

＜参考資料（利用上の注意）＞

- （１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33%）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。
- （２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30%、40%）の確率しか付けられません。
- （３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成 17 年 8 月 12 日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候 向こう1か月（8月13日～9月12日）：

期間の前半は気圧の谷やオホーツク海高気圧の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多いですが、後半は高気圧におおわれて平年に比べ晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目（8月13日～8月19日）：

期間のはじめは気圧の谷の影響で曇りや雨ですが、その後は、高気圧におおわれて晴れる日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

2週目（8月20日～8月26日）：

気圧の谷やオホーツク海高気圧の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

3～4週目（8月27日～9月9日）：

高気圧におおわれ平年に比べ晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

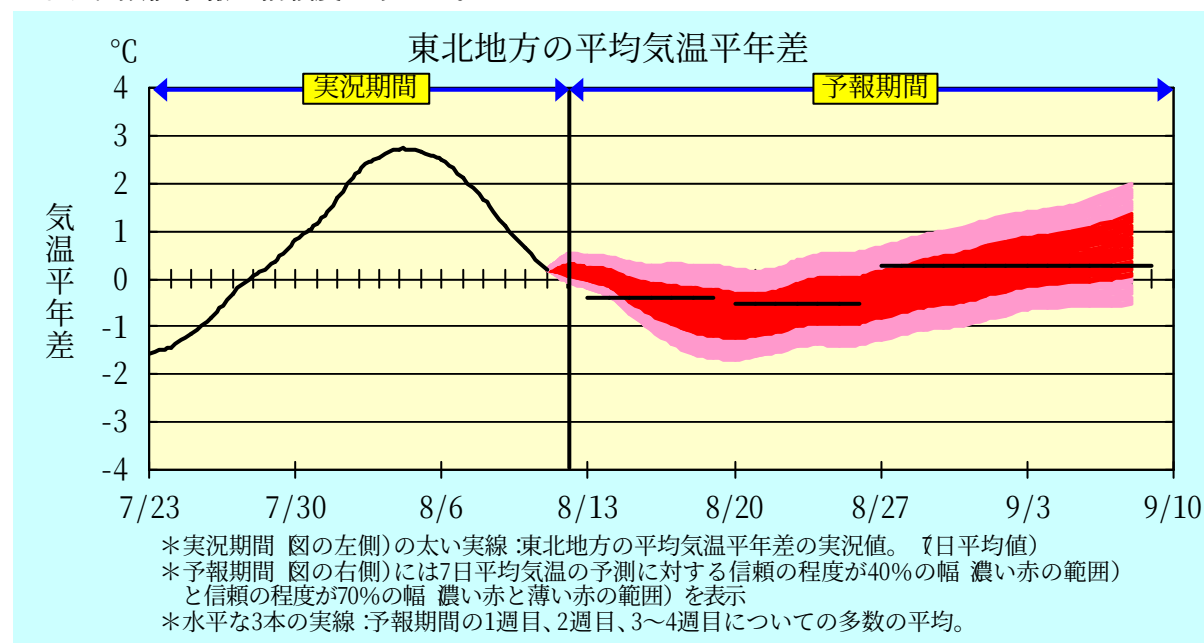
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	15.3日	4.2日	3.8日	7.3日
東北太平洋側	13.0日	3.5日	3.3日	6.2日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目ともに「平年並」と予測している。予報はその他の資料から、2週目を「平年並か低い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。



3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

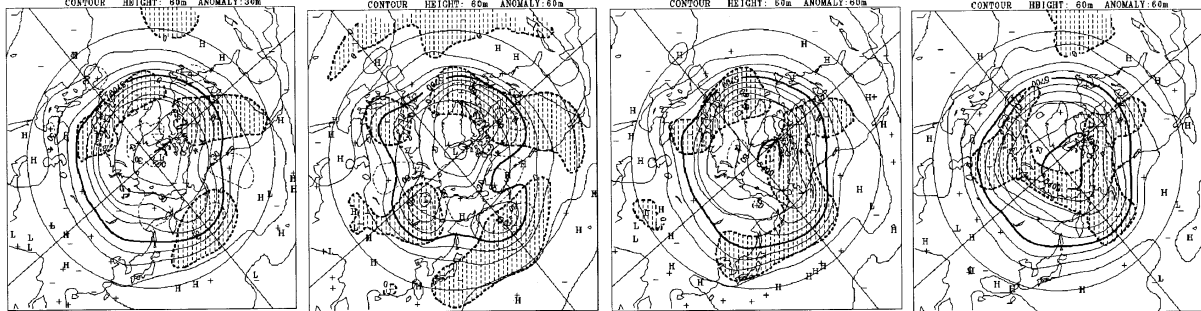
500hPa 高度と偏差：

月平均では、北半球は全体的に正偏差。太平洋高気圧の日本付近への張り出しは平年並。東シベリアでは 30m 以上の正偏差が見られ、オホーツク海付近の偏西風は分流気味。

1 週目は、ユーラシア大陸北部の偏西風が蛇行し、中央シベリア、日付変更線付近で負偏差、東シベリアでは正偏差。日本付近への太平洋高気圧の張り出しは弱い。2 週目は、引き続き太平洋高気圧の日本付近への張り出しは弱く、極東域の偏西風は平年より南下。東シベリア付近の偏西風の流れは分流気味。3～4 週目は 1～2 週目に比べて太平洋高気圧の張り出しは強まる。

28(2-29)DAY MEAN (8/13- 8/ 9) 7(2- 8)DAY MEAN (8/13- 8/19) 7(9-15)DAY MEAN (8/20- 8/26) 14(16-29)DAY MEAN (8/27- 9/ 9)

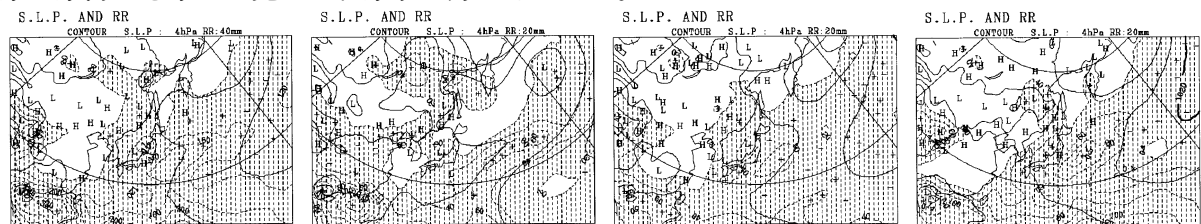
500hPa HEIGHT AND ANOMALY 500hPa HEIGHT AND ANOMALY 500hPa HEIGHT AND ANOMALY 500hPa HEIGHT AND ANOMALY



地上気圧と降水量：

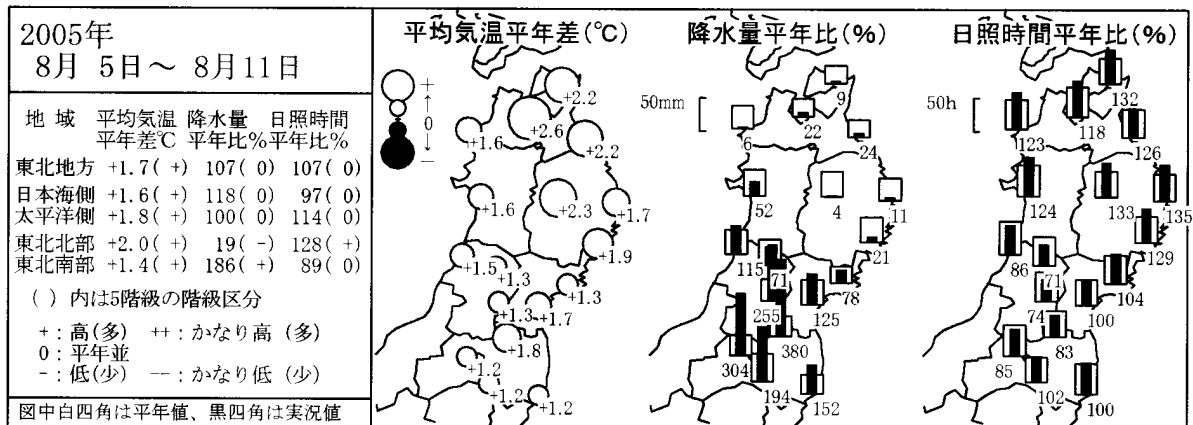
月平均では、オホーツク海に高圧部が見られることからオホーツク海高気圧が出現する時期がある見込み。降水域が関東の東海上に見られる。

1 週目は、太平洋高気圧の張り出しは弱くオホーツク海高気圧が出現する時期がある。2 週目は、前線が東北地方にかかる。オホーツク海高気圧の出現する時期がある。3～4 週目は、降水域が関東の東海上を中心に見られ、東北地方にもかかる。



4. 最近1週間（8月5日～8月11日）の天候の経過

この期間、6日までは、太平洋高気圧に覆われて良く晴れ、最高気温が35℃を超えた地点もあった。7日から8日にかけては、晴れる所もあったが上層に寒気が入りにわか雨や雷雨となった。9日から11日にかけては、太平洋高気圧が南へ退き、東北南部では前線がかかりぐずついた。東北北部では晴れる所が多かった。平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部で多い。日照時間は東北北部で多く、東北南部で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）